

漁村みんなで地域おこし  
～アクアサポート古江の活動～

古江漁業協同組合女性部  
中森 末子

### 1. 地域と漁業の概要

古江漁業協同組合のある尾鷲市は、三重県南部に位置し、面積は約193平方キロメートル、人口は約2万2,000人である。(図1)

尾鷲市の面積の約90%は山林で形成され、海岸は熊野灘に面した変化に富んだリアス式になっている。山と海に囲まれた、平地が極めて少ない土地に集落が形成され、主な漁村は湾奥に位置している。黒潮の流れる熊野灘に面し、背後を山に囲まれていることから非常に雨が多く、年間降水量は4,000mm以上になり、全国でも有数の多雨地域である。

平成16年7月7日に、熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、それに伴い年間約15万人の観光客がこの地域を訪れるようになった。

私たちが住んでいる古江地区は、尾鷲市の南部、熊野灘に面した賀田湾のほぼ中央に位置した水産業の町で、人口は約600人と非常に小さな漁村である。(図2)

### 2. 漁業の概要

尾鷲市は天然の良港を基盤とした水産業が発達しており、現在の主な漁業は魚類養殖業と定置網漁業である。

古江地区は、昭和30年代頃は遠洋漁業が盛んで、遠洋船の基地として、非常に賑わっていた。しかし近年では、漁業情勢の変化により減船や、倒産が相次いだ。今では大型の漁船は一隻もなくなり、現在は主に魚類養殖業、定置網漁業が行われている。

魚類養殖業では、マダイが生産され、定置網漁業では、主にアジ、カマス、イワシが漁獲される。漁業生産額は約5,000万円で、そのうち、約53%を養殖業が占めている。(図3)

### 3. 組織と運営

古江漁協女性部の会員数は55名で、執行部は部長1名、副部長1名、監事1名で、それに各地区代表8名で構成されている。これまで環境保全活動として海浜清掃、わかしお石けんの普及、組合事業協力として麦味噌作り、バザーの開催、魚食普及活動として、料理教室の開催、その他活動として海難遺児募金、老人ホーム慰問を行っている。

### 4. 活動の動機

古江漁協女性部は、昔から女性部活動の一環として、魚食普及を推進しており、その活動を行うことで、私たちは漁村になくてはならない存在になれることがわかった。何より伝えることの楽しさを経験したことで、私たちも漁村を支えているという“大きな満足感”が得られ、それを原動力とし、もっと私たちの持つ技術や伝統を、この地域に来てもらうことで伝えるとともに、古江の活性化を行いたいと思うようになった。

古江地区は、小さな漁村であり、高齢化も進んでいる。それは、地域に限ったことではなく、女性部にも当てはまることから、今活動を行わないとそれらが廃れてしまうという危機感から、魚食体験を中心に活動を始めることとした。

## 5. 活動の状況と成果

### (1) 3つの問題の解決

これらを行うには、活動場所の確保、地域全体の活性化のための地域の協力、活動のPR方法の検討と3つの大きな問題があった。

活動場所については、平成18年3月31日に、みえ尾鷲深層水施設、通称「アクアステーション」が古江地区に完成し、ここには、50人が一度に体験可能な体験室が作られており、市からも活動の中心として使って欲しいという申し出を受けたことにより、確保することができた。(写真1)

地域の協力については、アジ釣り体験を行ったときに、漁協女性部だけでなく地域の婦人会、若い風の会(古江地区の男性有志)の協力もあり、私たち以外にも地域の中に、古江をどうにかして活性化したいという思いがあることを知り、活動が行えるような受け入れ態勢が出来ないか検討し、その結果、協力体制を築くことができた。

PR方法については、尾鷲市から、グリーンツーリズム事業の「尾鷲市わくわく体験メニュー」の受け入れ先の一つとして入っていただけないかという協力依頼をいただき、願ってもないことですぐに承諾した。また、三重県からも「東紀州・魅力ある漁村づくり事業」の受け入れ先として、昔から魚食普及活動を行っている私たちに声をかけていただき、尾鷲市の事業と併せてPRできることになった。

これらは本当に思いも寄らない出来事で、普段から地道に活動を行っていることが、県や市から評価されたためであり、活動を行っていなければ漁業や漁村の文化もろとも消えてしまっていたらと思う、普段からの地道な活動の重要性を痛感した。

3つの大きな問題が解決したところで、ついにボランティア団体「アクアサポート古江」を平成18年10月7日に立ち上げることが出来た。構成員は、手を挙げてくれた漁協女性部、婦人会会員の22名である。少人数だが、女性部、婦人会どちらの方も入っているので声をかけられるシステムになっている。また、構成員には入っていないが、地域の男性有志「若い風の会」も私たち女性だけではできない力仕事や、自動車の免許を持たない私たちのために、車を出していただいたりと、陰ながら私たちを支えている。

### (2) アクアサポート古江結成後の活動

アクアステーション完成、アクアサポート古江の結成(写真2)と、地域の協力体制ができたことで、平成18年度の体験、イベントへの参加者数は、前年度を大きく上回るものとなった。(図4)

体験では、保育園児から高齢の方まで、いろいろな世代の方が、深層水を使った郷土料理などの体験をされたが、それらの体験を通じて、やはり魚食普及活動の必要性を改めて感じた。(写真3)

小学生の干物づくり体験では、ほとんどの子供が魚を捌いた経験はおろか、普段は食事の手伝いもほとんどしないということでしたが、最初はおっかなびっくり魚と包丁を触っていた子供も、一通り捌き方を教えると、あとは自分でどんどん魚を捌いていき、「おもし

ろ〜い」という声も聞こえるほどだった。また、「自分はあまり魚を食べないけれど、お父さんに食べてもらうんだ」という声もあり、この体験を行うことで、魚嫌いが治るのではないかという新たな発見があった。(写真4)

釣り体験では、地域の男性有志「若い風の会」が今までの経験を生かし、釣り体験の先生役となる。私たちは、このイベントのお手伝いをするが、この時はいつもの役割が逆転し、サポートに回っている。

主な活動としては、アクアステーションで行われるイベントの参加者に対して、料理のおもてなしを行うことや、自分たちの勉強のために料理教室へ積極的に参加している。(新聞切抜)

これらの活動をしていたことで、三重県から四日市にある、NPO団体コミレスネットが日替わりシェフの取り組みを行っている「こらぼ屋」への出店事業の話をいただき、自分たちの活動を試す場所をいただいたことに感謝しつつ、参加することにした。(写真5) 最初自分たちの料理が都会で認められるかどうか不安だったが、今までの活動や、何度も試食会を開き、そのたびにおいしいという評価をいただいたことで得た自信を持って出店することができた。その結果、開店から一時間を待たずに予約分も合わせ、用意した40食が完売となり非常に好評だった。この経験により、漁村の料理が都会でも十分に受け入れられることが分かったとともに、これからの活動の励みになった。

その他の活動は、施設周辺の清掃活動(写真6)、廃油石けんづくり、その販売等を行っている。少し前までは、地域の繋がりが薄らぎ、地域の活動も縮小傾向であったと思うが、アクアサポートができたおかげで、新たな地域の繋がりが生まれ、挨拶も家族のように交わすようになった。

## 6. 波及効果

このように、地域が一つとなって同じ目標を持って活動を行うことで、地域の活性化と活動の継続は可能と思われる。また、これらの活動で忘れてはならないのは、漁協と男性陣、とりわけ「若い風の会」の協力はとても大きく、私たちの活動にはなくてはならない存在となったことであり、持ちつ持たれつ助け合うことこそが大切であることに改めて気づかされた。(写真7)

そして、助け合うことで平成19年度の体験、イベントへの参加者数は、12月末時点ですでに1,000人を越え、これらの活動と思いは確実に地域に根付いてきていると実感している。

## 7. 今後の課題や問題点

今後も魚食普及等、体験活動を中心とした、地域の活性化を進めていきたいと思うが、古江地区は高齢化が進んでおり、漁業後継者の対策が必要となっている。これは、女性部にも同じことが言え、この活動を続けて行くには若いリーダーの育成が急務となっている。これらを踏まえて、私たちの活動を通じ、地域の活性化とともに若い人材の発掘・育成を行って後継者の育つ町を作っていきたいと思う。

また、活動のPR手段についても、広報誌、新聞等を活用しもっと積極的に働きかけていき、さらなる古江の魅力を発掘し、今後もふるさとを大切にしていきたいと思う。

最後に、私たち漁協女性部の願いは次世代を担う子供達が、魚食文化にふれることができる、魅力ある漁村を作っていきたいと考えている。

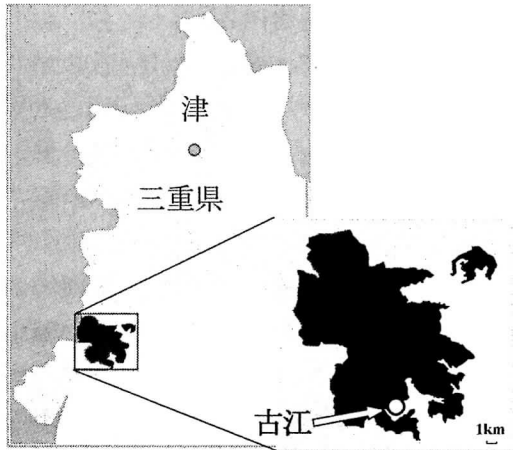


図1 尾鷲市古江町の位置

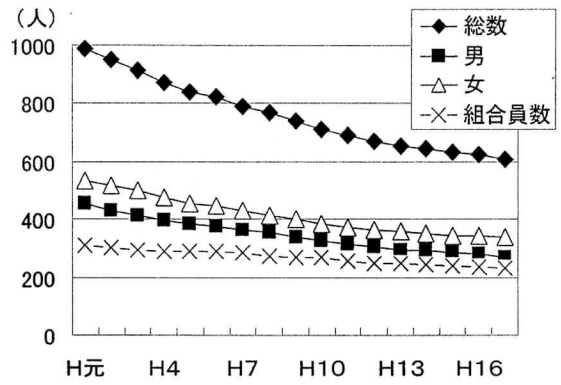


図2 古江町の人口推移

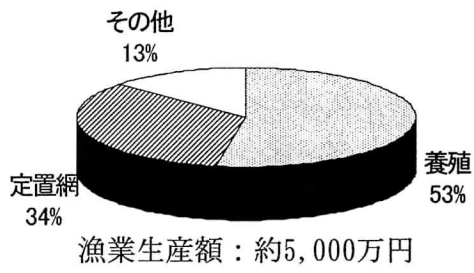


図3 古江漁協の漁業生産比率

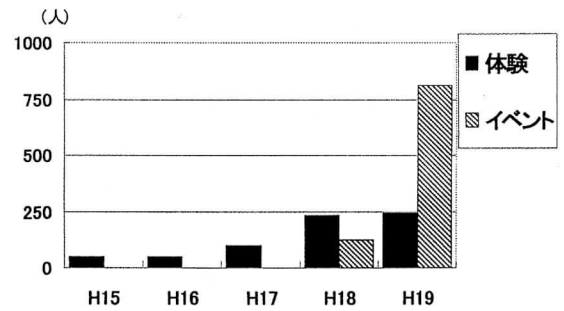


図4 体験、イベントへの参加者数

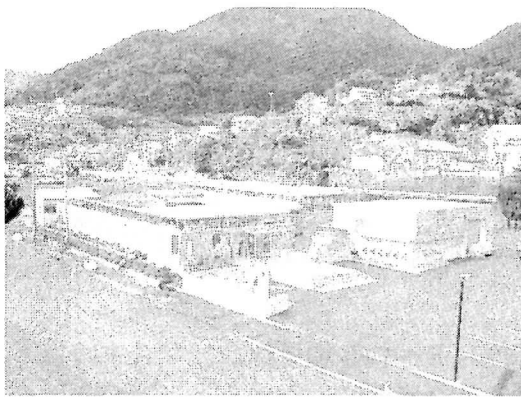


写真1 アクアステーション



写真2 アクアサポート古江



写真3 マダイの3枚おろし体験



写真4 干物作り体験

